

## シンポジウム「ZEB 時代に向けた建築・設備・人の適応」

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第 5 次報告書が公表された。そこでは気候システムの温暖化は疑う余地がなく、建築物の影響が大きいことが指摘されている。省エネルギーなどの温室効果ガスの排出を抑制する緩和対策だけでなく、将来の気候変動に備えた適応対策も重要である。建築に関するライフスタイルや行動を含めた環境適応について明らかにすることを目的とし、特別調査委員会「環境適応に関する調査委員会」が立ち上げられた。本シンポジウムでは、建築、設備、ひと、研究の多角的視点から適応の現状と今後の方向性について議論を行う。

主 催：日本建築学会 社会ニーズ対応推進委員会 環境適応に関する特別調査委員会

共 催：早稲田大学理工学総合研究所

日 時：2018 年 12 月 18 日（火）13:00～17:30

場 所：早稲田大学西早稲田キャンパス 63 号館 2 階第 4 会議室

### 第 1 部 建築と設備の視点から 13:00～14:40

主旨説明

田辺新一（早稲田大学）

<建築の視点から>

- ・環境対策によるデザイン・ヒント～OMA 時代とエネマネハウス 2015 小林恵吾（早稲田大学）
- ・環境シミュレーションが導く新しい有機的なデザイン 末光弘和（SUEP）
- ・環境適応と媒介項 中川純（レビ設計室）

<設備の視点から>

- ・Cool Tree に関する最新動向 丹羽浩範（日建設計）
- ・建築設備一体化技術の環境シミュレーション 白石靖幸（北九州市立大学）
- ・環境設計・運用における AI 利用の可能性 大岡龍三（東京大学生産技術研究所）

### 第 2 部 人と研究の視点から 14:50～16:20

<人の視点から>

- ・健康長寿を支える住まいと住まい方 星旦二（首都大学東京）
- ・人の行動と心理生理からみた環境適応 長澤夏子（お茶の水女子大学）
- ・人の環境適応を考慮した温熱環境計画 中野淳太（東海大学）

<研究の視点から>

- ・ZEH SHIFT・形態分析とストック改修の可能性 秋元孝之（芝浦工業大学）
- ・建築・設備・人の連成を考慮した熱環境予測・評価 尾崎明仁（九州大学）
- ・何故、住宅・建築の脱炭素化が必要なのか 田辺新一（前掲）

### 第 3 部 質疑・討論 16:30～17:30 司会：田辺新一（前掲）・中野淳太（前掲）

\*講演・発表の題目は、変更になる場合があります

参加費 会員2,000円、会員外3,000円、学生1,000円（資料代、当日会場でお支払い下さい）

定 員 150名（申し込み先着順）

申込方法 Web申し込み <https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=615342> よりお申し込みください。（締切：11月30日（金））

問合せ 日本建築学会事務局 事業グループ 酒井 E-mail：[sakai@aij.or.jp](mailto:sakai@aij.or.jp) TEL：03-3456-2051